

●アピールポイント（日本文教出版）

原典教科書全教科にわたってUDへの対応等には意を用いており、このことは拡大教科書においても活かされている対応と考えます。また、中学社会と中学数学は拡大教科書では分冊になっていますが、共通の配慮として、目次では当該分冊以外の掲載範囲を編み伏せして強調したり、巻末索引も当該分冊の掲載語句のみを黒字、その他をグレー字にしたりするなどのきめ細かい配慮を施しています。以下に教科別の特色をまとめました。

【中学社会】

- 原典教科書は、見開き2ページを1授業時間で想定しており、概ね各見開きは左ページの「導入図版」や「学習課題」、右ページの「本文」・「各種資料」、右ページ下の「学習課題を確かめよう」という流れでレイアウトしていますが、この学習の流れが拡大教科書においても極力そこなわれないよう掲載の配列を意識したページ構成をこころがけました。
- 原典教科書において、目次までの導入部分及び奥付以降の巻末部分の資料は、どの分冊を学習する際においても必要な資料が多いので、全分冊に共通して掲載しました。
- 中学社会においては「歴史的分野」と「公民的分野」は6分冊ですが、「地理的分野」は8分冊としています。これは「地理的分野」が写真等の図版類が他の2分野と比べて圧倒的にその点数が多いため、一定の大きさに拡大することで、見えやすさを優先するようにしました。
- 「地理的分野」の地誌単元（第1編第3章・第2編第3章）の「導入」

と「学習のまとめ」ページに掲載している大きな地図については、拡大教科書においても文字がのど（綴じしろ）にまたがらないように配慮しました。また、各州・各地方の地名等の文字が判読できるようにすることを意図して、更に分割拡大した地図を上記の地図に続けて再掲載するようにしました。

- 「歴史的分野」における巻末年表は全分冊の巻末に挿入して、学習に支障をきたさないようにしました。
- 「歴史的分野」における小判等の実物大教材については、どのポイントの拡大教科書であっても実物大になるように配慮しました。

【中学数学】

- 「例」, 「問」等の文章がめくった次ページにこないよう、できる限り同一ページ内、もしくは同一見開き内で収まるよう構成しました。
- 図中の線は総じて原典教科書より太くしていますが、太さに明確な差を付けることで区別が付きやすくしました。
- レイアウトを改変する際、「方程式を解く過程では、“=”を縦にそろえてかく」といった数学独特の組版ルールはできる限り維持するようにしました。

【中学美術】

- 絵や図版と解説が分離しないように、同一ページ内、もしくは同一見開き内で収まるよう構成しました。
- 目次のサブタイトルを見やすくするために、メインタイトルの文字の大きさに極力そろえました。
- 図のキャプションや、文中のルビもできるだけ大きくし、使いやすさを追求しました。